小田原市議 佐々木ナオミの 議会な日々ニュース

extra #0522

携帯電話 080-5484-1634
メール love-and-peace@naomi-sasaki.com

発行責任者 佐々木ナオミ 〒250-0874 小田原市鴨宮831-7 tel&fax 0465-49-3732 HP http://naomi-sasaki.com/

新地下街の名前は「ＨａＲｕＮｅ小田原」に決定！

市民公募で選ばれた地下街の名称は「ハルネ小田原」とのこと。黄緑色を基調としたふんわりしたロゴデザイン、言葉の意味は、小田原に「根を張る」ということで、オシャレないい名前になったと思います。

が、問題は、やはり中身。

わたしはこれまでずっと地下街再生計画には反対してきました。

それは、小田原市が事業主体となって、商用施設を運営することがもっとも大きな理由です。

過去2度の失敗をした小田原地下街。改修工事に26億円もの税金をかけ、その上、事業が失敗したらやはり税金で負担をして行くことになります。

議会で予算が通り、すでに改修工事が始まっている以上、ぜひとも成功してほしいと私も思います。

しかし

- 3階にある駅の改札口から、地下に降りてまで買いたくなるような魅力的な店舗とは、具体的にはなにか？
- さらに、地下街から周辺商店にも回遊して行くような仕掛けとはどんなものか？
- 搬入口は、狭い上に一方通行の東通りからになるが、交通の混乱対策は十分にできるか？

などなど、不明な点はまだあります。

オープンは今年11月を予定。本当に中心市街地活性化の起爆剤となるのでしょうか。注目していきたいと思います。

HaRuNe小田原

小船森区画整理事業、破綻の顛末。

バブル真っ只中の平成元年、小船森の6.9haの農地だった土地を宅地にして住宅街を作った「小船森土地区画整理事業」。しかし、バブル崩壊という時代の流れに逆らえず、宅地が売れず、いろいろ手を尽くしたが改善のめどが立たず、全96区画のうち36区画が売れ残りました。

このままでは、69人もいる地権者の負担は増すばかり。また、まちづくりの観点からしても問題だ、ということで、平成21年、市と、国と、民間金融機関から約7億円を借り入れ、6人の取締役による「小船森土地区画整理株式会社」を設立。この株式会社が売り残った全て土地を買い上げ、その後はこの株式会社が、販売を行う、ということになりました。

ところが、株式会社にしてからも、なんと1区画しか売れず、取締役のお1人が亡くなったのをきっかけに、「厳しい不動産業界にあって、販売経験のないものが今後も役員を務めることは、会社に迷惑をおかけする」という理由で4人が辞任。そして、昨年10月に、破産申し立てが行われ、破産手続きが始まりました、ということでした。

事業開始から25年間で、小田原市は、当初の補助金約5億円。株式会社になっての補助金1100万円。そして、株式会社へ貸付けた3億4千万円（うち1／2は国からの貸付）。あわせて8億5千万円も損失が出たことになります。

現在はこの土地を一括して不動産業者に約2億5千万円で売却する方向で進んでいますが、それでも、踏み倒された借金には足りず、税金で補填することになります。

急遽開かれた議員説明会では、「なんで株式会社になるのを許したのか？」「辞任した取締役に責任を問えないのか？」などの疑問の声が上がりましたが、法的には全く落ち度がないとのこと。市はこの損失をだまって受け止めるつもりのようです。

おそらく、その時その時はのっぴきならない事情があっての最大限の判断だろうと推察はしますが、すんなり「しかたがない」で済ませられる問題なのか疑問です。

議論は始まったばかり。今後、様々に混乱が起こりそうな気配です。

それにしても、結局のところバブル時代のツケを、今になって払わなければならないという案件ですが、こうした案件はまだまだこれからも出てくるのでは？という不安もよぎります。

であるからこそ、これからのまちづくりは、夢や希望を語るのではなく、現実をしっかりと見据えてシビアに考えて行く必要がありそうです。

市民政治グループ「@あしがら」
政治サロン　総会スペシャル企画

震災から3年
それからの飯舘村の報告

講師　日本大学生物資源科学部研究員

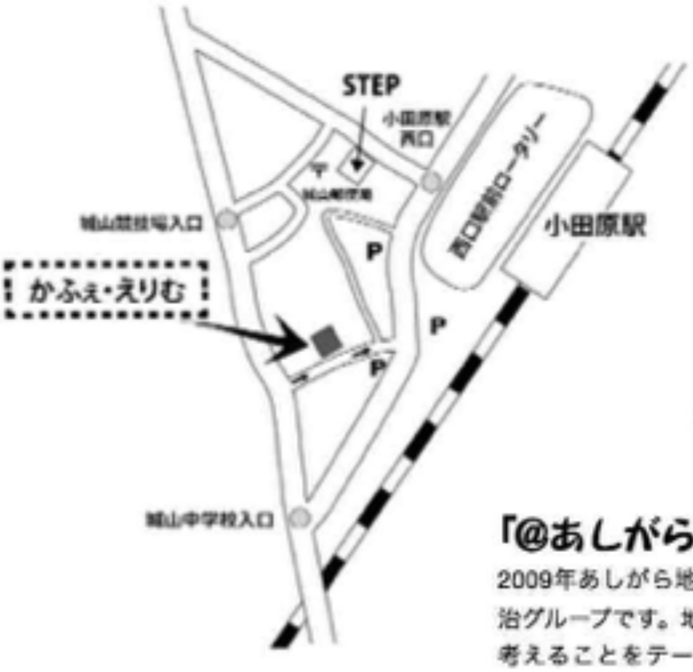
浦上健司さん

2011年3月15日、飯舘村には雨、雪とともに大量の放射能が降り注ぎました。
「直ちに影響はない・・・」として、国は汚染を把握しつつも村民は高い放射能汚染の中に放置されました。
あれから3年。村では復興に向けた道筋の検討が始められていますが、行政と多くの村民の間にはその考え方にギャップが生じています。
浦上さんは、震災前から飯舘村で活動されて、今も地域に根差した支援活動を続けられています。
現地の状況をうかがう貴重な機会です。ぜひ、ご参加ください。

プロフィール

浦上健司（うらがみけんじ）

日本大学生物資源科学部研究員。NPOエコロジー・アーキスケープ副事務局長。学生時代に福島県飯舘村に滞在しながら、人間生活と周辺環境との関係性について研究。その後、地域プランナーとして同村の村づくりに関与し、自然エネルギー地産地消システムの構築に携わる。3.11後は、飯舘村後方支援チームの一員として3月23日に入村し、メディアリリース用のレポートづくり等に従事。同村の全村避難後は村民の避難生活充実や、村民による生活再建案の検討にかかる支援を手がけている。



3月16日（日）

15:00～17:00

城山 かふぇ・えりむ

参加費500円（定員50名先着順）

お申し込み・問い合わせ　080-5484-1634(ささき)

「@あしがら」って何？

2009年あしがら地域に誕生した、市民政治グループです。地方自治を市民の側から考えることをテーマに地道な活動を続けています。

あっと
@あしがら
ぼくらの市民自治
Watch!! Listen!! Speak!!